

令和2年度 会長 指 針

同友クラブ会長 平 澤 洋 一

ご縁に感謝 60周年に向けて○と◇の輪を広げよう

平成の時代が終わり新しい令和の時代を迎えた現在、日本のみならず世界中に感染が広がっている新型コロナウイルスが、我々の社会生活、経済活動に大きな影響を与えています。各種イベント、集会の中止、縮小、様々な施設の休館、休校、人の行き来の制限等、数え上げればきりがなほどの大変な事態です。しかし、どんな困難な時でも悲嘆にくれて立ち止まってばかりいるわけにはいきません。この前例がないとも言える非常時、同友クラブ会長を拝命したことは大きな重圧ですが、貴重な機会と感謝し、同友クラブとして何ができるのか何をなすべきなのか、役員、会員の皆さんと共に考え、議論し行動していきたいと思えます。

同友クラブは59年前に我々の先輩方が立ち上げ、脈々と伝統を受け継ぎ築き上げて来られた上部団体のないオリジナルの組織です。シンボルマークである丸と四角の環は、それぞれ異なった個性、立場、主張を示し、その組み合わせは「話し合い」と「理解」と「協力」を現しています。私たちは、この原点を再認識し、お互いを尊重し、楽しみながら、自己啓発並びに地域貢献を進めていきましょう。

本年度は、会員数の減少などから、従来の総務委員会と広報委員会を合同にして総務広報委員会、親睦委員会と研修委員会を合同にして親睦研修委員会にそれぞれ変更させていただき、6委員会から4委員会になります。ほとんどの委員会にとって、担当例会数が例年より増える形となり、役員をはじめ、会員皆様のご理解、ご協力が不可欠です。メンバー同士、助け合いながら委員会活動を行っていただければありがたいです。そして、ぜひ新しい会員、仲間の輪を広げて行っていただきたいと思えます。せっかくの素晴らしい理念を持った他にはない地元オリジナルの同友クラブでも、会員を増やさなければ、組織の存続が危ぶまれます。様々な個性を認めてこそ、会が活性化すると信じます。今年度は会員増強を各委員会第一の目標で、よろしく願いいたします。

そして、来年度は60周年を迎えます。先輩方から受け継いだ伝統に敬意を払い、多くの人たちに同友クラブを知ってもらおう機会になるよう今年度からしっかり準備いたします。

皆様のご意見をお聞きし、このご縁に感謝し、よりよい同友クラブを目指してまいります。あらためましてどうぞよろしくお願いいたします。